

単元のゴールを意識し、英語で自分の思いを伝え合うことができる授業を目指して

－児童が主体的に取り組む学習活動を通して－

栗原市立若柳小学校 大島 貴志

1 授業づくりに関わる課題

4月に行ったアンケートの結果から、本学級の児童の96%が英語の授業を「楽しい」「どちらかというと楽しい」と答えている。自由記述を見ると友達や先生との英語でのやり取りを楽しんでいる児童が多く、ペアやグループでの活動に意欲的に取り組むことができている。また、外国語の学習は将来役に立つと考えている児童も多く、英語を聞き取ったり、話したりできるようになりたいという意欲は高い。しかし、「自信を持って英語で発表できますか」という質問には、72%が消極的な回答をしている。理由として、失敗への不安を挙げる児童が多く、その中でも特に、正しい発音で話することができるか不安という意見が多い。そのため、発音に対する不安を和らげ、解消する手立てを講じていく必要があると考える。

2 研究の目的と方法

英語の音声に触れる機会を多く設定し、児童が進んで英語を話す時間を確保することで、自信を持って英語で話することができるようになることを考える。研究主題「単元のゴールを意識し、英語で自分の思いを伝え合うことができる授業を目指して」を達成するため、以下の2つの手立てを講じる。

(1) 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

単元の第1時に、①単元のゴールを提示し、②その達成に必要な言語材料を児童とともに確認する。毎時間、③学習課題（本時のめあて）と⑤まとめを児童と確認することを継続することで、主体的に学習活動に取り組んでいるという意識を持たせる。④本時の表現は、観点を与えてモデル会話を聞かせ、できるだけ児童から引き出し、全体で確認して板書する（図1）。

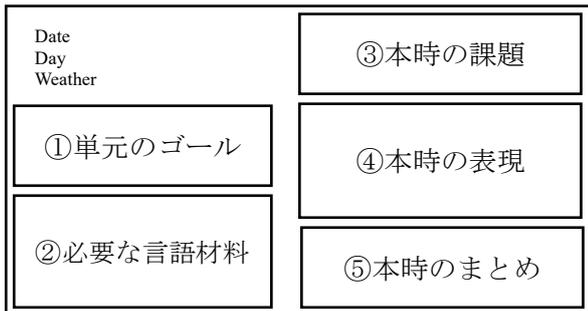


図1 外国語の基本的な板書例

(2) 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

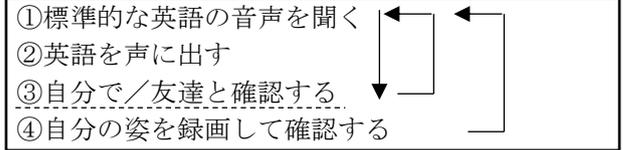


図2 単語や英語表現の練習サイクル

単語や表現等を練習する際、図2のような①②③のサイクルで練習していく。その後、④で客観的に確認する。練習が不十分だと感じた時は、①に戻り練習を積み重ねていく。自分の成長を動画で確認することで、少しずつ英語を話すことへの自信を持つことにつなげていく。

3 I期の取組

単元名「Unit4 Summer Vacations in the World」

（東京書籍 NEW HORIZON Elementary 6）

(1) 単元の構成

	目標◆ 主な活動○【】
1	◆単元のゴールを知り、必要な言語材料を確認する。 ①Small Talk：昨日食べた物 ②単元のゴールと言語材料を確認する。 ③単語や英語表現の練習 ④振り返り
2	◆過去形(went)の言い方を知り、聞くことができる。 ①Small Talk：30秒間やり取り ②本時の学習課題を確認する。 ③単語や英語表現の練習 【Let's Try①】ワードゲーム 【Starting Out】登場人物の夏休みの過ごし方を聞き取る。 I went to ～.の表現を使って英語でやり取りする。 ④振り返り ※第2時の①～③は導入で、④は終末に毎時行う。
3	◆楽しんだことを英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen①】登場人物の夏休みの思い出を聞く。 【Let's Try②】これまで楽しんだことを英語でやり取りする。
4	◆食べた物を英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen②】夏休みの経験と感想を聞く。 【Let's Try③】これまでの夏休みの経験と感想を英語でやり取りする。
5	◆思い出報告書の下絵を作成する。 ○スライドに必要な情報を全体で共有する。 ○スライドの下書きを作成する。
6	◆思い出報告書のスライドを作成する。 ○タブレット端末でスライドを作成する。 ○やり取りに必要な表現を確認する。
7	◆作成したスライドを用いて、思い出報告書について伝え合うことができる。 ○グループでスライドを見せ合いながら思い出についてやり取りする。
8	◆世界の夏休みについて考え、世界と日本の文化の理解を深める。 【Do you know?】【Challenge】【ことば探検】

(2) 具体的な手立て

① 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

第1時で本単元のゴール(「これまで訪れた思い出の場所や楽しかったことを紹介しよう」)を設定し、その達成に必要な言語材料を児童とともに確認した。確認した言語材料は、「I went to (訪れた場所)」「I enjoyed (楽しかったこと)」「I ate (食べた物)」「It was (感想)」である。毎時間、単元のゴールと言語材料を児童とともに確認し、その時間の課題(本時のめあて)を設定した。

② 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

本時の目指す姿を視覚的に確認させるため、事前に録画したALTと担任のモデル会話を提示した。目指す姿を達成するために、英語の音声を聞いたり、自ら模倣して発音したりする機会を増やし、タブレット端末を活用して、個人やペアで単語や英語表現の練習に取り組ませた。

(3) 成果と課題(○:成果 ●:課題)

① 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

○ 単元のゴールを設定し、その達成に必要な言語材料を児童とともに確認し、毎時間取り上げる材料を確認したことで、取り組む内容が明確になり、児童は単元の学習過程を見通しながら意欲的に取り組むことができた。

○ 「他にどのような表現があるのだろうか」「自分が言いたい食べ物は何て言うのだろうか」と疑問に思ったことをタブレット端末で調べ、意欲的に表現しようとする姿が見られるようになった。

● 「思い出報告書」の具体内容や作成方法を児童にイメージさせることができず、戸惑っている様子が見られた。単元のゴールを設定する際に、ICTを活用し、「思い出報告書」を使った最終段階でのやり取りの様子を具体的に示すことで、更に意欲的に、目的意識を持って取り組ませることができたのではないかと考える。

② 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

○ 学習者用デジタル教科書や写真ツールを活用し、単語や英語表現の練習に取り組ませた結果、最終の言語活動では自信を持って英語を話している児童が多く見られた。

○ 事前に録画したALTと担任のモデル会話を提示し、本時の目指す姿を視覚的に確認させたことで、目指す姿が明確になり、その達成に必要な言語活動に意欲的に取り組むようになった。

● 個人での発音練習の際に、両耳にイヤホンを装着して取り組ませた。しかし、周りの友達の声が聞こえなくなったことから、自分一人しか発音練習をしていないのではないかと不安になり、逆に声が小さくなってしまった。

4 II期の取組

単元名「Unit6 Let's think about our food.」

(東京書籍 NEW HORIZON Elementary 6)

(1) 単元の構成

時	目標◆ 主な活動○【】
1	◆単元のゴールを知り、必要な言語材料を確認する。 ①Small Talk: 昨日食べた物 ②単元のゴールと言語材料を確認する。 ③単語や英語表現の練習 ④振り返り
2	◆普段食べている物や食材を聞くことができる。 ①Small Talk: 30秒間やり取り ②本時の学習課題を確認する。 ③単語や英語表現の練習 【Let's Try①】ワードゲーム 【Starting Out】登場人物が食べた物などを聞き取る。 I usually eat ~.の表現を使って英語でやり取りする。 ④振り返り: 第1時と同様 ※第2時の①~③は導入, ④は終末に毎時行う。
3	◆食べ物の産地を英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen①】登場人物が食べた食材を聞く。 【Let's Try②】食べ物の産地について英語でやり取りする。
4	◆食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen②】食材の栄養素グループを聞く。 【Let's Try③】食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語でやり取りする。
5	◆オリジナルカレーの下絵を作成する。 ○スライドモデルを確認し、作成するスライドに入れる必要な情報を全体で共有する。 ○スライドの下書きを作成する。
6	◆オリジナルカレーのスライドを作成する。 ○タブレット端末でスライドを作成する。 ○やり取りに必要な表現を確認する。
7	◆作成したスライドを使用して、自分の考えたオリジナルカレーについて伝え合うことができる。 ○友達とスライドを見せ合いながらオリジナルカレーについてやり取りし、動画を撮影する。
8	◆日本と世界の食料事情について考え、世界と日本の文化の理解を深める。 【Do you know?】【Challenge】【ことば探検】

(2) 具体的な手立て

I期の課題を受けて、2つの手立てを改善した。

① 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

I期ではゴールで取り組む内容を、口頭説明で終わらせてしまった。そこで、第1時で本単元のゴール(「オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう」)の姿を児童に伝える際、目指す姿がより明確になるよう、やり取りで用いるスライドの例を提示した。また、各時間の終末では、課題(めあて)に立ち返り、その時間でできるようになったことを児童とともに振り返り、児童の言葉でまとめさせ、次時に生かすようにした。

② 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用
I期の課題を受け、イヤホンを使用する場面を変更した。

ア 標準的な英語の音声を聞く

「食材」「野菜・果物」に関係する英単語や英語表現について、学習者用デジタル教科書を活用して自分のペースで聞かせた。その際、イヤホンを着用させることでより明瞭に聞かせることができた。

イ 英語を声に出す

学習者用デジタル教科書の英語表現練習機能を活用して個々のペースで発音練習に取り組ませた。その際、イヤホンは着用させないことで、周りの友達の声も聞こえ、安心して英語を声に出させることができた。

ウ 自分で／友達と確認する

タブレット端末の写真ツールのアルバム機能で、「食材」「野菜・果物」の英単語のイラストを見ながら児童が自分で確認したり、友達とクイズを出し合ったりして英語を声に出す場面を設定した。

エ 自分の姿を録画して確認する

本時のやり取りに必要な表現を友達と十分練習した後、やり取りを録画させ、自分の姿を客観的に確認させた。自分の姿から改善点を見付けさせ、再度練習に取り組ませた。

(3) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

① 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

○ 第1時に単元のゴールを提示し、児童とともに単元のゴールに向かうために必要な言語材料を設定したことで、毎時間ゴールを意識して取り組ませることができた。また、提示したゴールと設定した言語材料を紙面に表し、教室内に掲示することで、常にゴールを意識し、見通しを持った学習につながった。（図3）

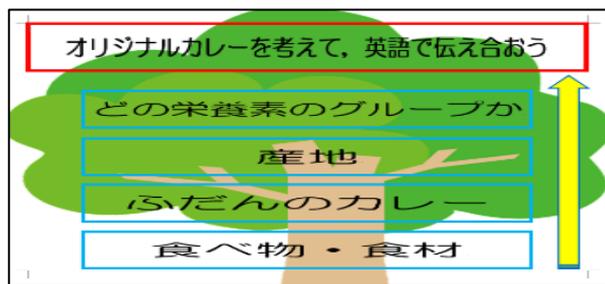


図3 II期実践で使用した掲示物

○ A L Tとのモデル会話の動画や目の前でやり取りを見せるとき、観点を与えて繰り返し見させることで、その時間のやり取りに必要な表現を児童から引き出すことができた。また、その表現を板書し、授業の終末まで残すことで、児童は本時のまとめを作成する際の参考にできた。

○ 家庭科と関連させ、オリジナルカレーを実際に調理するというゴールを設定したことで、分からない単語や表現をタブレット端末で調べるなど、

意欲的に取り組む様子が見られた。

● 児童の言葉を生かして学習課題を設定する際、児童は掲示物を参考にするので、形式的に答えてしまう傾向がある。掲示物を基にしなが、児童の多様な考えやアイデアも取り入れた学習課題を設定し、意図した目標に近づける工夫を考える必要がある。

● 毎時間振り返りを行わせたが、自己評価で終わっている。次時につながるような、振り返りの具体的な活用方法を考えていきたい。

② 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

○ 児童それぞれに自分のペースで、あるいは友達と協力しながら英単語や英語表現の練習に取り組ませたことで、集中して学習に取り組むことができた。また、ペアワークの際、タブレットから聞こえた英単語や英語表現を答える活動も加えたことで、聞く力の向上にもつながった。（図4）

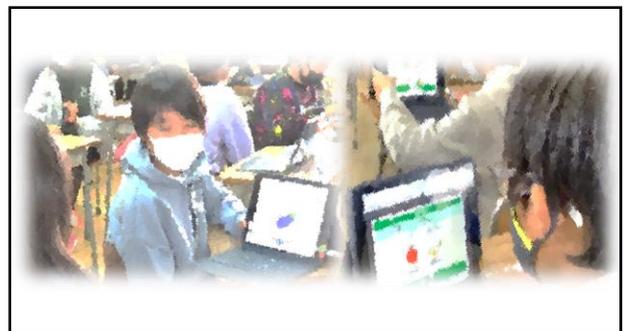


図4 個人、ペアで単語や英語表現を練習する様子

○ タブレット端末を積極的に活用し、英語を聞く時間、英語を声に出す時間を多く設定した。そのため、単元で学習する表現に加え、既習表現も着実に定着させることができた。また、友達の考えをよく聞き取り、その場で質問したり、質問に答えたりする力が向上した児童も増加した。

● 他のペアのやり取りの様子を録画したものを見合う時間を確保できない時があった。他のペアと比較したり、全体で振り返ったり、改善点を考えたりすることで自分たちのやり取りの上達につながると考える。

5 まとめ

(1) 研究の成果

① 単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

表1 アンケート結果

毎時間、課題（めあて）を持って英語の授業にとりこんでいますか。							
A：あてはまる B：どちらかというあてはまる							
C：どちらかというあてはまらない D：あてはまらない							
A		B		C		D	
4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月
4%	60%	64%	28%	28%	12%	4%	0%

単元のゴールを提示し、その達成に必要な言語材料を児童と共に確認する活動を継続してきた。そして他教科と同様に、単元の第1時から最終時まで児童の言葉を生かした学習課題（本時のめあて）を設定してきた。9月のアンケート結果の「毎時間課題をもって英語の授業に取り組んでいますか」という項目で、「あてはまる」または「どちらかというあてはまる」と答えた児童が88%になることから、多くの児童が、常に1単位時間当たりのゴールを意識できたことに加え、単元のゴールに向けて取り組み続けることができたことが分かる。（表1）また、授業の流れが概ね同様だったため、安心して1単位時間を過ごせたという感想も多く見られた。（表2）

表2 児童の振り返り

<p>【児童の振り返り】抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあて→考え（活動）→まとめ→振り返りという算数や社会と同じように授業が進んで、5年生までは何をやるかいつも不安だったけど、今は次に何をやるか分かっていいです。 ・何を目指して勉強しているのかを毎時間確認したので、そこに向かってがんばることができました。 ・新しい言葉や表現が出てきても、授業の最初に毎回確認するので、周りの友達の声聞きながら思い出すことができました。

② 児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

表3 アンケート結果

「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で楽しい活動はどれですか。							
聞く		話す		読む		書く	
4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月
48%	40%	12%	44%	12%	8%	28%	8%

4月当初、英語を「話す」ことが好きと答えた児童は12%だったが、9月は44%の児童が「話す」ことが好きと答えるようになった。（表3）

これは、いつでも英単語や英語表現を練習できる環境が整備され、タブレット端末を活用して、個人やペア、グループなど、様々な形態で児童が進んで練習に取り組んできたことが一因と考えられる。英単語が定着し、自分が話す英語の発音に自信が付くにつれて、徐々に英語を話すことへの抵抗感が減ってきたように感じる。これまで、英語で話そうとしたり、書こうとしたりする際、「先生、これは何て言えばいいですか」と多くの児童から助けを求められていた。しかし、現在では、翻訳機能を活用して本当に自分が伝えたい英単語や英語表現を検索して伝えようとする主体的な姿が見られるようになった。また、給食の時間に献立を英語で説明したり、学級イベントで英語ゲームをやったりと、自ら英語を楽しむようになってきた。このように、今まで以上に英語で話すことに主体的に取り組むようになった。

(2) 今後の課題

① 自己評価(振り返り)の扱い

児童の自己評価を次時の活動につなげる具体的な手立てを考えていきたい。今年度、タブレット端末を活用することで、簡単にアンケートを取り、集計することができるようになった。一方で、現在の振り返りは、毎時のねらいについて「できた」「できなかった」などと回答させることが多い。今後は、その理由や改善点を具体的に記述させる項目を設け、次時につなげていきたい。

② 学習課題の設定の仕方

目的意識を更に持たせる学習課題の設定の工夫が必要だと考えている。どの単元においても、児童と共に確認した言語材料をもとに、毎時間の学習課題（めあて）を設定してきた。（図3）しかし、形式的な言葉での設定が多く見られるため、今後は児童と共に確認した言語材料に加えて、「～するために、普段のカレーを英語で伝え合おう」など、目的をはっきりとさせ、児童の意欲を向上させる課題設定となるような働き掛けを考えていきたい。

③ 提出させた動画の扱い

動画を活用する有効性を児童に感じさせる工夫が必要である。他の友達やペアの様子を見合う時間を確保することに加えて、教師が上手にできている児童やペアの良い点を全体に伝えたり、どこが良いかを全体で考えさせたりするなど、よりよい発音や、やり取りを目指した取組につなげていきたい。ICTが身近になったからこそできる効果的な使用方法を考えていきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料，2020
- 2) 文部科学省：小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック，2017

【図表等の許諾について】

図4は、タブレット端末を使用した児童の活用の様子の写真である。表2は、児童の振り返りである。児童の名前を伏せて活用することとし、写真、振り返りと共に児童の保護者から使用許諾を得ている。